



国労せんだい

No. 2671
2014年2月26日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌仙

14春闘勝利に全力を

地方委員会でも確認

地方本部は2月22日、仙台市内アエルにおいて、第125回定期地方委員会を開催した。
委員会で出席した委員の真摯な討論の結果、議案は全て承認され、当面する諸課題と14春闘勝利に向けた取り組みの意思統一が図られた。

全ての闘いを組織拡大へ

委員会は歌川副委員長の挨拶で開会し、議長には千葉委員（仙石線駅連合）を選出した。地本を代表し、大沼委員長は、委員会の焦点として、▼春闘。中央・エリア委員会決定した運動方針を全体で確認し、ベア獲得の腹固めをすること。春闘要求は2月12日JR各社に一斉に申し入れ、3月14日に回答を求めている。



挨拶する大沼委員長（左は千葉議長）

安倍首相はアベノミクスによりインフレに誘導しようとしているが、円安や消費税増税もあり、経済学者や専門家はデフレからの脱却は賃金の向上、特に月例賃金の引き上げが必要不可欠としている。全産業、全ての労組がベアを前面に出し交渉を進め、JR内でも各労組が全力を尽くす春闘にすることが求められている。2000年から賃下げが続いているのは日本だけ。年収200万円以下の労働者は、1200万人超過、家族の継続、労働力の再生産が困難な事態。一人勝ちの大企業は270兆円の内部留保を積み増し。職場で隣の仲間とこの社会問題を話し合い、ベア獲得を労働者の総意とする14春闘に。▼政治動向。安倍首相は自



委員会終了後に団結頑張ろう三唱

民の党である憲法改正につきすすんでいる。日本国憲法は国民主権・平和主義・基本的人権の尊重を原則に、時の権力者の身勝手な振る舞いを縛るため制定されたものであり、あらゆる反動政治に反対する勢力の接着剤として国労は貢献しなければならぬ。▼組織拡大。全ての闘いを組織拡大へ。

- 1・26/30 東北交運労協海外交通事情視察（台湾）
- 2・1 安プロ・各支部業務部長合同会議
- 2・2 全国貨物協議会エリア代表者会議
- 2・4 第5回地方執行委員会
- 2・8 地本アスベスト対策会議

- 2・8 地本婦人部定期委員会
- 2・8 中間会計監査
- 2・11 東日本本部第31回拡大委員会
- 2・12 第6回地方執行委員会・第2回闘争委員会
- 2・15 第44回国労仙台家族会総会

時間は多く残されていない。一人一人の組合員が意識し汗をかこう。国労を主張する方法は様々。よく国労らしい闘い、というが国労は独善的・観念的組織ではない。時代・情勢に柔軟に対応し、職場の労働者と一緒の今の問題に向き合い改善する取り組みを進めることが重要。具体的に職場で不安や不満を持つ労働者、他労組、若い世代とも話し合える職場環境と人間関係

を築こうと述べ、忌憚のない委員の発言を要請した。続いて来賓からは激励と連帯の挨拶を頂いた。また特別報告として、第16代高校生平和大使の吉田有沙さんと仲野瑞保さんから平和大使としての活動と課題について報告を受けた。さらに東日本本部伊藤執行委員からは、情勢と国労が抱える諸課題等が述べられた（別掲）。

- その後、原子書記長が大に強く申し入れてきた。
- 【※委員の発言と特別報告は別途掲載予定です】
- 来賓（敬称略）
- ☆社会民主党（国労議員団） 石川 建治
 - ☆日本共産党 横田 有史
 - ☆宮城県平和労組会議 菅原 晃悦
 - ☆全交運共済生協 太田 博二
 - ☆国労東日本本部 伊藤 隆夫

国労を質・量共に強く

▼2月11日の東日本拡大委員会で方針確立。喫緊の課題は組織拡大、安全問題など全ての闘いを組織強化・拡大に集約する意思統一をした。昨年の大会以降、20代から「最後は国労」の仲間まで、幅広い世代の加入、またJR本体だけでなくグループ会社のプロパー社員等、横への広がりも。

▼首都圏の業務委託職場である、JR東日本ステーションサービス（JES）



東日本伊藤執行委員

今後JES会社は千葉・水戸など拡大が推測され、労使間のルール作りから組織拡大につながる突破口にしたい。

▼新採対策では、公平・公正な扱いを繰り返し求めてきたが、昨年一部支社と現場で看過しがたい事象が発生しており、「新規採用者の現場配属に関する申し入れ」を提出し、再発防止に向け会社

に強く申し入れてきた。

▼組織拡大は国労の存亡をかけた待ったなしの状況。この数年が勝負であり、一人でも多くの仲間の加入を勝ち取ろう。

▼安全問題。検修業務の外注化では多くの委員から発言があった。また駅業務委託化では直外区分や作業指示関係での偽装請負問題、駅遠隔システム導入など会社の効率化・合理化は、安全とサービスを蔑ろに進められている。東日本本部は「働き方」と「就労条件」の二つで会社との交渉を進めていく。JR北海道問題など改めて「安全は輸送業務の最大の使命である」ことを労使双方が再確認することが求められており、「安全・技術に関する申し入れ」や「車両セン

組合員一人ひとりの決意が大切

組織強化・拡大対策会議

1月18・19日の両日、仙台市内法華クラブにおいて、「組織強化・拡大対策会議」を開催した。
国労が最重要視する課題がテーマであり、各支部・分会の代表者と組織部を招集し、この間の総括と今後の対策について意思統一を図った。

会議は、青年部や秋田地本・仙台地本の拡大職場からの報告と参加者全員による分散会、地方本部組織部からの提起で構成され、冒頭、国労東日本本部彦田青年部長から、青年部の状況や取組について報告がされた。

青年部長報告

◆青年部常任委員会を開催し、「一人でも多くの仲間を増やしていきたい」と議論をしている。取組みの一つとして青年部交流会を開催し、他労組の青年にも呼びかけをし話し合う等している。また青年部主体で入社式宣伝行動を行なっている。結果として東日本エリアでは7年連続で新規採用者が国労加入。

◆和解後の変化。プロ採用入社の組合員が一度目で車



東日本彦田青年部長

部になることが必要。

◆もう一人の仲間が欲しい。未加入の青年もいる。とにかく呼びかけをしなければ加入はない。しかし分会等の活動がしつかりしていないといざ加入という段階であわててしまう。

秋田地本報告

続いて昨年6月21日に拡大



秋田地本高橋執行委員

があつた秋田地本からの報告として、秋田地本高橋英樹執行委員と東労組から国労に加入した宮崎和孝さんから報告を受けた。

この間の組織拡大の取組みを報告。高橋執行委員は、「とにかく全組合員が取り組まなければ達成は困難であるとの位置付けから、地本内組合員の全員オルグを実施した。100%は出来なかったが95%は実施できた。そしてターゲットを見つけようと提起した」「行動を起こして提起する。アクションをしなければ何も起らない。きれいに物事が進むわけではない」と述べ、目標の達成に向け、提



秋田地本宮崎さん

起と行動が大切と訴えた。続いて宮崎和孝さんは、国労加入の経過と現在の気持ち等を報告した後、「高橋さんら国労の人たちは仕事の話で熱くなれる、かついいおっさんだなと感じた。今後も仕事を通じて技

1000号達成 みんなで作るみんなの機関紙

宮城県支部東北工事事務所分会が以下の報告が届きましたので紹介します。

東北工事事務所分会では、去る1月25日利府町の「ホテル浦嶋荘」で「第27回定期分会大会」を行った後、機関紙「ろばた」を発行1000号達成祝賀会を開催しました。

祝賀会には分会OBを含め25名の参加があり、歴代の分会長や教宣担当者から、「ろばた」発行にまつわる苦労話を聞いたりしながら、当時を懐かしく振り返り交流を深めました。

当分会は前身である国鉄盛岡工事事務所（岩手県盛岡市）の廃止に伴い、組合員が東日本管内各地に分散配置された中で、1987年5月に仙台工事事務所の仲間と結

成しました。そして、分会発足とともに各地に分散する組合員の絆を結ぶ情報紙として発行されたのが「ろばた」であり、以来27年の歳月を経て1000号に達成することができました。

1000号の歴史をひも解くと、

組合レクや旗開き・交流会といった和やかな記事の一方で、不当発令撤回・団体交渉・地労委闘争・裁判闘争など当時の緊迫した闘いの様子がうかがえます。特に同僚の死亡事故に対して労働災害の認定を勝ち取ったことなどは、遺族や分会執行部をはじめとする多くの仲間が東奔西走した結果であることとを物語っています。

機関紙活動を分会活動の中心に据え、「みんなで作るみんなの機関紙」を合言葉に発行してきた「ろばた」は分会の活動記録そのものであり、こうしてOB会員の参加の下、盛大に祝賀会を開催できたのも「ろばた」があつてのことです。

1000号達成を記念して、仙台地方本部から表彰状と祝い金をいただき、宮城県支部と東京工事事務所分会からは祝辞とともに心遣いをいただきました。これを励みとして気持ちを新たに活動していきますので、今後ともご指導ご支援をよろしくお願い致します。



ペンは剣よりも強し！これからも頑張ろう！\(*^o^*)

術継承をしつかりとやってもらいたい」と業務が国労加入のキーポイントの一つであると述べた。

集会は、エリア本部からの提起と4職場から拡大に向けた取組みの報告がされた。その後参加者全員による分散会が行われ、議論を深め合った。



分散会の様子

仲間の異動

1月20日付

◆一般異動

大和 秋男さん

郡山運輸区

小牛田運輸区

退職のお知らせ

1月31日付

村上 幸栄さん

郡工支部車体科

長い間お疲れ様でした